

歴史は未来の羅針盤



近江日野商人館(大窪)、近江日野商人ふるさと館「旧山中正吉邸」(西大路)の開館時間は、午前9時から午後4時まで、休館日は毎週月・火曜日、祝日の翌日、年末年始になります。入館料は、大人個人三〇〇円、大人団体二五〇円、小・中学生一二〇円です。ぜひご来館下さい。

日野の正月行事

古来、日本では、祖先の霊が田の神・山の神となり、正月になると家々にやってくると思われています。

こうした考えにもとづき、正月に子孫繁栄や五穀豊穡を願う行事が、全国の家々や村々で広く行われるようになりました。

今回は、日野地域の村々で行われている主な正月行事を紹介いたします。

勧請吊り

勧請吊りは、年の初めに藁製の大繩を集落の出入口や神社の入り口に掛け渡し、村の安全祈願や五穀豊穡を願う正月行事です。村に悪霊や疫病が入ってこないように、村の外れに結界として吊り下げたのが始まりと言われています。近畿地方を中心に全国で確認されていますが、滋賀県の湖東地方

で行われている勧請吊りは、分布密度の高さと、勧請繩の多様さにおいて傑出していきます。

日野町域でも、大字西明寺、大字村井の馬見岡綿向神社・大字北脇の諸木神社・大字原の芦谷神社・大字熊野の熊野神社などで行われています。



▲大字西明寺(西谷)の勧請繩

山の神祭り

山の神祭りは、一月上旬の初山入りの日に行われる、山仕事始めの行事です。元来、山の神は、山林や山への

入り口を守り、木こりや猟師など山仕事を生業とする人々を守護する神ですが、田畑の耕作を生業とする里の人々のあいだでも広く信仰された神でした。なぜなら、燃料となる薪や落葉、建築材料となる木材、田の肥料や牛の飼料となる草、屋根材となる茅など、山は村人の暮らしに必要な物資をもたらしてくれる大切な存在だったからです。

日野町域でも、東桜谷・西桜谷、南比都佐・必佐地区を中心に、30を超える地域で山の神祭りが行われています。

行事は地域によって様々ですが、御神体となる松や杉などの立木に村人が集まり、御神酒・塩・米・餅・藁ツトなどを供えて神拝し、五穀豊穡を願います。日野地方の山の神祭りは、股木を用いた神事や、注連繩を曳き切る鉤曳き儀礼など、古式をよく残していることから、学術的にも注目されています。

熊野神社の弓神事

大字熊野の熊野神社では、毎年正月の第二月曜日に「お祈り」と呼ばれる弓神事が行われます。

一般に、弓神事は、邪気を祓い、福を射止めるために行われる神事と考えられており、熊野でも大蛇退治にまつわる伝説が残されています。

神事は、熊野の宮座集団であるシュウシ仲間(若者が担います。烏帽子をかぶった狩衣姿の若者が片肌を脱ぎ、古式の作法にのっとり、大蛇の目に見立てた的を射る様は、冬の冷気とあいまって、荘厳な雰囲気につつまれます。



▲熊野の弓神事(写真提供: 日野観光協会)